

EVI環境マッチングイベント2014

クレジットを活用した

環境貢献型商品の開発・販売促進



左：国土緑化株式会社 経営戦略部
商品企画室マネージャー 山田 隆介氏
右：石岡市森林カーボンオフセット協議会
会長 池田 寛氏

地域の森を守りたいという思いと、国産材を守りたいという想いが見事にマッチングし、捨てられていた木材を有効活用し新たなサービスに繋がったという事例をご紹介します。

■山田 当社は「グリーンポケット」という業界唯一のグリーンレンタルを全国展開するフランチャイズチェーンを運営しております。法人のお客様向けに観葉植物を貸し出して定期的な訪問により、水遣りや交換メンテナンスを行うサービスがグリーンレンタルです。全国の加盟店、協力店、ネットワークにて質の高いグリーンを全国にお届けする業界のリーディングカンパニーです。

それは、小さな森づくり

国産檜材を使った当社のオリジナル商品「グリーンバ」は室内に小さな森を簡単につくれる商品です。「それは小さな森づくり」をコンセプトに、



グリーンバ

Plants

プランツフォー
モア・トゥリーズ

城島の中央にあり、

■池田 石岡市は茨城県の中央にあり、内て観葉植物が排出するCO₂排出量の測定もしており、他社にはない様々な試みを行っております。

様々なサイズや形状をつくることのできる自由な緑化提案のできる商品です。もう一つは檜合板を使用した箱型のオリジナルプランターです。現在植物のプランターはほとんど中国や東南アジアから輸入しており、国産材を使ったナチュラな風合いのプランターはほとんど流通していません。また一般社団法人モア・トゥリーズ様に寄付をし、これが日本の森を守るプロジェクトに繋がっています。当社は商品開発だけではなく「植物を科字する」というキーワードをもとに様々な研究も行っています。「オフィス緑化実験」では千葉大学と産学連携を行い、装飾としてはなく働く人のため、ただの癒しではなくグリーンによって効率を上げる、コミュニケーションを活性化させるなど、今までは違った視点で「環境と健康からのグリーンレンタル」を目指しています。また社

筑波の山々や万葉集にも読まれた恋瀬川が流れ込む霞ヶ浦という自然が沢山ある場所に位置します。献上する富有柿を初め果物や農産物が沢山とれます。昔は農作物を作る為に堆肥として里山の落ち葉が使われたり、お風呂を沸かす薪として使われたりして森は生かされていきましたが、現在はほとんどコナラやクヌギ等の広葉樹林は藪になってしまいました。間伐が遅れた針葉樹林はイノシシの絶好の住かとなり農作物は食い荒らされたりしています。

このような藪になった森を綺麗にしようということで、平成23年12月にカーボンオフセットの取組みを開始しました。翌年3月に石岡市森林カーボンオフセット協議会を立ち上げ、被災地産のカーボンオフセット



間伐材作業風景



エコ支柱植物試作

の調査対象地として採択されました。対象となった森林は全部で120箇所、石岡の山地の中に点在しており、個々の面積は平均0.5haの民有林で面積は、61.23haです。このプロジェクトは平成25年5月に1091トンのクレジットの認証を受けています。販売したクレジットを利用して、桜を100本、コナラを600本植樹しました。しかしそのクレジットはまだわずか5%しか販売できておらず、諦めていたところに救世主地域活性化伝道師加藤部長さんが現れました。EVIプラットフォームを利用して国土緑化さんとマッチングさせていただきました。

エコ支柱グリーンプロジェクト

■山田 皆様も支柱を使った植物を見たことがあるかと思いますが、共同で開発中の商品「エコ支柱グリーンプロジェクト」について報告させていただきます。ポトスやオキシカルジューム等の蔓性の植物が代表的な支柱の植物です。この支柱に使われている棒パーツがヘゴという植物でほとんどが東南アジアから輸入しているのが現状です。近年生産者から輸入規制がかかりヘゴ植物が作れないという問題が上がっていました。その情報を聞き、日本の森の材料を使って支柱をつくり、生産者と連携して植物を生産することで、独自のプロジェクトがづくりあげられるのではないかと感じました。



ヘゴ植物生産

しかし数件の木工業者さんに相談しましたが、枝材のみを山から切り出すということには難しいという回答がほとんどでした。諦めかけていた時カルネコ事業部加藤部長に相談したところ、EVIマッチングで石岡の森の池田様を紹介して頂きプロジェクトがスタートしました。石岡の森を訪れる中で、スギやヒノキなどの針葉樹に絞らず、用途の少ない広葉樹も支柱に利用することになりました。針葉樹を活用では間伐材の中でも捨てられる素材に新たな価値を与えること、広葉樹を活用ではうっそうと茂った雑木林を人が入ることができる里山に戻すことに繋がっていきます。また商品開発のフローとしては石岡の森から支柱を提供していただき、生産者に送り半年から1年ほど生産にかかり、その後当社で仕入れてお客様の元へお届けするという流れになっています。

日本の森を上手く活用し、今後森への興味をもっと強めてもらえる商品に育てたいと思っています。また当社から森への還元ということで石岡の森のクレジットを商品売上の一部から購入し、そして石岡の森と当社エコ支柱商品がしっかり回っていくサイクルを作っていきたいと思っています。近年ポトス等は、新しさがなく人気が無くなってきている側面もあります。本商品は飽きられつつある植物にも新しい風を入れられるのではないかと感じています。また植物を育てる生産者の助けになるのではないかと感じています。ポトスの国内の生産量は年間3万鉢といわれており、その他の品種を合わせると更に大きな数字になり、5年10年先になるかも知れ



石岡の森

ませんが、国内の支柱植物を全て国産材エコ支柱にするというビジョンを持ち、石岡の森と繋がりながら商品開発を進めていきます。

■池田 実際には切り捨てられている木が沢山あります。このプロジェクトで切り捨てられている木が少しでも森林側に収入として戻るような仕組みができれば森は生き返って来るとは思いません。

「端材から生まれるB&Bの価値の創出をする」森林所有者の方も智慧を絞り、端材に価値を生み出すために適切な施業方法を考えていかなければいけないと思います。それができて初めてBの一員になれるのではないかと思います。このような機会を与えて下さったカルネコ事業部加藤部長、皆様に感謝しております。